

答え合わせ・解説

問1	答え 1 円本	1冊1円という低価格で販売されたことから「円本（えんぼん）」と呼ばれました。改造社が発行した「現代日本文学全集」が大ヒットしたことをきっかけに、各出版社から競うように全集が発行されました。これにより、それまで一部の知識層に限られていた読書習慣が一般の人々にも広まり、文化の「大衆化」を象徴する出来事となりました。
問2	答え 1 米騒動と寺内正毅内閣	1918年に始まったシベリア出兵を見越し、商人が米を買い占めたことで米価が暴騰しました。これに抗議する富山県の主婦たちの行動から始まった「米騒動」は、軍隊が出動するほどの規模となり、当時の寺内正毅内閣は事態を收拾できず総辞職に追い込まれました。この後、本格的な政党内閣である原敬内閣が誕生することになります。
問3	答え 1 民族自決の理念が、アジアやアフリカにおける植民地の民族独立運動を刺激した	ウィルソンが掲げた「民族自決」は、主に東欧諸国の独立に適用されましたが、この考え方はアジアやアフリカの植民地支配下にあった人々にも大きな影響を与えました。その結果、朝鮮での三一独立運動や中国での五・四運動といった民族運動が活発化する背景となりました。なお、提唱者であるウィルソンの母国アメリカは、上院の反対により国際連盟には加盟していません。
問4	答え 1 大正デモクラシーの影響で民主主義を求める運動が高まり、加藤高明内閣によって普通選挙法が制定された	第一次世界大戦後、護憲運動や社会運動といった「大正デモクラシー」の機運が高まり、国民から参政権の拡大を求める声が強まりました。これを受けて1925年に普通選挙法が成立し、納税額の制限が撤廃されたことで、有権者の割合が大幅に増加しました。なお、この法律とセットで社会主義運動などを厳しく取り締まる治安維持法も制定されたことが歴史的な特徴です。
問5	答え 1 家父長制的な社会の中で、女性が本来持っている力を発揮し、人間としての自覚と自由を求めるため	当時の日本は「家」の制度が強く、女性は法的・社会的に制限された立場にありました。平塚らいてうは、女性が自らの個性を磨き、精神的に自立することを重視して青鞞社を立ち上げました。他の選択肢にある女子教育（津田梅子）、反戦詩（与謝野晶子）、労働運動（赤瀬会など）も当時の重要な社会の動きですが、平塚らいてうの青鞞社結成の直接的な目的とは異なります。
問6	答え 1 総力戦体制	第一次世界大戦は、従来の戦争のように軍隊同士が戦うだけではなく、国全体の経済や国民生活を戦争に組み込む必要がありました。この体制により、男性が兵士として前線に送られた後の労働力不足を補うため、多くの女性が軍需工場などで働くようになりました。この変化は、戦後の女性の社会進出や参政権獲得の契機にもなりました。
問7	答え 1 ヨーロッパからの製品の輸入が途絶えたことで、国内での機械や薬品などの自給が必要になったため	第一次世界大戦が勃発すると、戦場となったヨーロッパの国々からの製品の輸入が途絶えました。これにより、それまで輸入に頼っていた機械類や化学薬品などの自国生産が必要不可欠となったことが、日本の重化学工業化を強く後押ししました。また、欧州諸国がアジア市場から撤退したことで、日本製品への需要がアジアやアフリカで高まったことも大きな要因です。
問8	答え 1 原敬	米騒動を武力で鎮圧した寺内内閣が国民の批判を浴びて退陣した後、衆議院の第一党である立憲政友会の総裁が首相に指名されました。陸軍・海軍・外務の三大臣以外をすべて政黨員で固めたこの内閣の成立は、大正デモクラシーの大きな転換点となりました。